

# ひとり暮らし等高齢者見守り支援事業スタート！

## 『ひとり暮らし等高齢者見守り支援事業』ってなあに？



五條市社協では、地域ボランティアが、ひとりで暮らし高齢者等に手作り弁当を届け、見守りを行う「給食サービス」や「配食サービス」という呼び名で親しまれてきた事業を、昭和52年から昨年度まで、長年実施し、地域で高齢者等を見守る体制を構築してきました。しかし、昨年度、食品衛生法の改正で手作り弁当を公民館等で作ることができなくなってしまう。

そこで、今年度新たに始まったのが、『ひとり暮らし等高齢者見守り支援事業』です。この事業は、お弁当にこだわらず、見守りを行うことを事業の中心に据えたものになっています。地域ボランティアが、ひとり暮らしの高齢者を訪問し、安否確認を行い、お話をすることで孤立感の解消となり、高齢者が安心して日常生活を送ることができるよう配慮することを目的とした事業です。

さて、今年度、この事業を最初に開始してくださったのが宇智地区社会福祉協議会です。今回は、宇智地区を取材してきました。

### 宇智地区の二情報

(令和4年10月1日現在)

人口 3,548人、 高齢者人口 1,416人  
高齢化率 39.9%

## 『地区社会福祉協議会』って知ってる？

五條市では、昭和50年に最初の地区社会福祉協議会が誕生し、現在16地区に組織されています。「地区社協」と略して呼ばれ、自治会、民生児童委員、地域団体、ボランティア団体など、地域内の福祉関係者の参加を得ながら、住民が中心となって、すべての住民が安心して暮らせる福祉のまちづくりのために様々な活動をしています。

宇智地区では、地区社会福祉協議会の構成員である、民生児童委員が訪問しておられます。お弁当を楽しみにしているとの声が多かったために、今年度も外注の弁当を持って訪問されることになりました。登録されている利用者は、46名。皆さん、普段はお元氣ですが、ひとりで生活されており、何かあった時には不安を抱えておられます。

秋晴れの10月11日午後、出来たてのお弁当が民生児童委員さん宅に届きました。温かい内に、と早速訪問がスタートしました。

今日は、  
こんなお弁当  
でしたよ。



「病気で自宅療養されているという方は、「長年この地域で暮らしているけれど、最近は近所付き合ひも少なくて人と話をすることがないんですよ。」と棕本さんの訪問を楽しみにされていることが分かりました。

新型コロナウイルス感染症が流行し、対面でお話する機会が減りましたが、感染対策を徹底し、見守り支援事業を行っています。「皆さんの喜ばれている顔を見ることでやりがいを感じている。」とお話されていました。

五條市社会福祉協議会では、この見守り支援事業を実施して下さる地区社会福祉協議会や、ボランティアさんを募集しています。

今回、宇智地区民生児童委員協議会の棕本会長に同行させていただきました。民生児童委員に就任して12年が経つそうです。

玄関ドア越しに「こんにちは。

お弁当を持ってきました。」と声をかけると、皆さん出てこられ、「ありがとう。朝晩涼しくなつたなあ。」とすぐに会話が始まりました。

顔なじみの関係なので、お弁当の内容にリクエストされる方もいらっしゃいました。

「また、お弁当屋さんにおくね。」

